



地域のチカラ

3

はちみつ採れる街を みんなで創る地域活動

東京都調布市 グッドモーニング仙川！プロジェクト（仙川みつばちプロジェクト）

活動概要

「グッドモーニング仙川！プロジェクト」は仙川（調布市）の地域プロジェクトです。活動コンセプトは「誰もが自分の街のキャストになろう！」。街の清掃活動から始まった活動は、駅前・公園の緑化活動につながり、さらには植えた花から採れるはちみつを皆で楽しむ「仙川みつばちプロジェクト」へと展開し



コミュニティ養蜂スクールメンバー（仙川）

ました。はちみつの採れる街仙川として、花と笑顔の溢れる暮らしを創造していきま
す。2018年の活動コンセプトは「みつばち×こども×福祉×地域」として、環境

学習体験、福祉施設児童向け採蜜会、そして調布市全体への展開としての深大みつばちプロジェクト、コミュニティ養蜂家を育成するためのスクールなどを行っていく予定です。

**マンション養蜂
「仙川みつばちプロジェクト」
ができるまで**

これは住民が地域で蜜蜂を育て、マンション住民・地域住民と一緒にその恵みを味わうという話です。その活動が街全体に広がり多くの方に参加いただける活動へと発展して、街を巻き込んでいくことになりました。（マンション養蜂としては、国内で



唯一のプロジェクト) 始まりは2014年6月、何気ない日々から始まります。

自分の街のことを 何も知らない!

調布市仙川町という街にマンションを購入し、住み始めて10年。会社生活とマンション内の人間関係だけで過ごしてきた私は、自分の住む街のことを全く知らない事実が愕然としました。マンション管理組合はひとつの自治会のようなもので、その人間関係だけで完結してしまうとその周りの地域との繋がりは生まれません。当然、街には友だちもいませんでした。気に入らずに住み始めた街なのに、何もしなければ、



はちみつ

このあと10年20年経ってもこのまま時間だけ過ぎていくだけです。そんな焦りがありました。全く地域のことに目を向けて来なかった私には何をすればいいのか分かりません。そうかといって自ら自治会に入ろうという発想もありませんでした。

2014年(平成26年)6月24日、仙川の街に大量の雹が降り積もり、街はパニックになりました。ちょうどその日少し早い時間に帰宅した私はその場面に遭遇しました。この初夏の街が、一面氷で真っ白なのです。これは大変だと思い、まずはスコップを持ち出し、雹かきを始めます。街の人たちと一緒に、無心で雹をかき出しました。このとき自分の街を守っているという実感を覚えました。

毎朝のゴミ拾いで地域デビュー

このときから自分の中で何かが変わりました。ちょうど駅前のマンションというところもあり、駅前の様子を観察していました。すると、街にゴミが多いことに気づきました。こんなゴミだらけの街に住んでいたのかという驚きとともに、ゴミ拾いなら自分でもできるなと考えて、翌日の朝から出社前にゴミ拾いをするようになりました。

6月末から3ヶ月ほど一人で行っていましたが、マンション住民にもこの街の状況を説明し、協力を仰ぎます。そして、マンションの住民も一緒にゴミ拾いをしてくれるようになりました。私は1年間毎朝続けることにしました。すると、街のことがよく分かるようになります。

ゴミ拾いから緑化へ

そして、また新たな気づきがありました。「街に花がない」ということです。



マンション養蜂写真(ゴミ置場屋上)

住み始めたときにはたくさんあった雑木林もどんどんマンションに変わり、街は殺伐としてきていました。この街には、人がたくさん住んでいても、花を植え、緑を増やす人はいない寂しい街だなと思いました。ここで「この街にもっと花や緑を増やしていこう」と決心します。といっても、花の知識はありません。マンション住民と一緒に街の緑化をできないかと声を掛けると、数名と一緒にやってくれることになりました。市役所の助成などを受けながら、掃除イベントや緑化イベントなども企画し、ブログやSNSを通して人を集め、駅前や公園の緑化活動を進めました。

みつばちと共に暮らす街

私たちの植えた公園のラベンダに飛んできたみつばちが、ふと目に留まります。この光景に感動しました。あっそうだ、みつばちを飼ってみるのではちみつを食べたらどんなに楽しいだろうか？一年掛かりで情報収集を行い、巣箱設置場所をマンションのゴミ集積倉庫の屋上緑化された場所に選定すると想定して、マンション住民及び近隣住民へも相談を開始しました。そして平

成28年1月にマンション管理組合総会での正式な承認を経て、みつばちの巣箱を敷地内に設置することになり、4月から「仙川みつばちプロジェクト」がスタートしました。

仙川の街の花へみつばちたちが毎日飛んできます。1ヶ月後の平成28年5月、採蜜ができるまでに蜜が溜まりました。マンション住民や地域住民に声を掛け、蜂蜜パーティー（採蜜会）を開催しました。これがきっかけとなり、地域の人との繋がりがどんどん生まれるようになっていきました。

平成28年8月7日には、子ども向けイベントとして「仙川みつばちの学校（巣箱見学、蜜源探し、みつばちの生態講座）」をマンション住民と一緒に開催。地域の子どもたち15名とその保護者に参加していただき蜜蜂と人の楽しい暮らしを感じてもらい、自分たちの住む街やその自然の在り方を考えることができました



採蜜会



採蜜パーティー

た。気づいたら、私だけでなく多くのマンション住民も街に出て、ゴミ拾い、緑化活動、蜜蜂飼育など街で活躍するようになっていきました。マンションが街に開かれ、繋がっていることを感じました。どこのマ



仙川養蜂スクール

ンションでもできる訳ではありませんが、住民の思いが集まれば、このようなことも可能になるのではないかと思います。
現在、この活動を通して、この街に住んでいることの実感を持つようになり、大変充実した毎日を送っています。このマンション、この街に住んだからこそその暮らしが実現できたのです。これからもマンション住民、そして地域の皆様とのご理解とご協力を頂きながら、この活動を継続してきましたと思います。

世話ができる訳ではありません。はちみつの採れる街にするためには、多くのコミュニティ養蜂家（地域で養蜂活動をして地域交流を行いコミュニティ形成に貢献する養蜂家）を育成する必要がありますと考え「コミュニティ養蜂スクール」を開校することにしました。現在は、市内に2拠点（仙川と深大寺）にて10名の生徒（40代〜70代男女）と共に



深大寺養蜂スクール

「はちみつの採れる街を創りたい」という話を色々なところである機会が増えました。調布市内では大きな森を抱えている深大寺や調布駅界隈でもみつばちプロジェクトができたらしいですよね、という話をしていたところ、2018年春に地元の不動産会社から場所の提供があり、深大寺エリアでもみつばちプロジェクトが始まりました。しかし、一人で全てのみつばちのお

地域から街全体へ
「コミュニティ養蜂スクール
の開校」

活動しています。
みつばちの懸命に生きる姿に元氣と勇気をもらい、変わるきっかけをもらいました。子どもや若者たちにも、みつばちの命を感じ、養蜂の面白さやそこから生まれる暮らしの豊かさを体験してほしいと思っています。養蜂を通じて若者支援や障がい者支援にもつなげていきたいと思い、地域の福祉団体との連携を始めています。
（グッドモーニング仙川！プロジェクト 代表 児島秀樹）

「みつばち×子ども×福祉×地域」